

令和4年2月1日

保護者様

令和3年度佐賀県学習状況調査の実施結果について（概要）

基山町立基山小学校
校長 福山 信代

昨年12月1日（水）と2日（木）に小学校4・5・6年生を対象に、「令和3年度佐賀県学習状況調査」を実施しました。今年度分の調査結果の概要をまとめましたのでお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1. 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、佐賀県の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況を把握するための教科に関する調査を実施

☆4・5年生は、国語・算数を実施

☆6年生は、国語・社会・算数・理科を実施

3. 教科（領域）ごとの調査結果の概要

【4年生正答率】

	国語	算数
基山小学校	58.7	50.5
佐賀県	58.5	47.6

- 国語の調査結果概要について
 - ・国語全体については、県平均とほぼ同程度である。
 - ・相手に伝わる話し方やことわざの意味を問う問題については高い結果となった。
 - ・正しい引用の仕方を選ぶ問題や、共通点や相違点を捉える問題については課題が見られた。
- 算数の調査結果概要について
 - ・算数全体については、県平均よりやや高い結果となった。
 - ・円の描き方や角の大きさの求め方を問う問題については、県平均より相当高い結果となった。
 - ・小数の仕組みの理解や、場面の状況から時間を割り出す問題については課題が見られた。

【5年生正答率】

	国語	算数
基山小学校	68.5	51.5
佐賀県	58.4	42.3

- 国語の調査結果概要について
 - ・国語全体については、県平均より相当高い結果となった。
 - ・慣用句の使い方や、筋道の通った文章にするために構成や展開の工夫を問う問題については高い結果となった。
 - ・資料から必要な語句を引用したり、文章全体の構成を捉えて要約したりすることについては課題が見られた。

○算数の調査結果概要について

- ・算数全体については、県平均より相当高い結果となった。
- ・公約数を利用したグループ作りの仕方を問う問題は、県平均より相当高い結果となった。
- ・図形の性質に着目し、合同な図形の描き方について説明する問題については課題が見られた。

【6年生正答率】

	国語	社会	算数	理科
基山小学校	70.7	74.1	56.7	88.6
佐賀県	66.1	64.6	46.1	79.5

○国語の調査結果概要について

- ・国語全体については、県平均より高い結果となった。
- ・文章から理解したことを基に自分の考えをまとめる問題は、県平均より高い結果となった。
- ・正しい漢字の使い方や、文と文の接続の関係を問う問題については課題が見られた。

○社会の調査結果概要について

- ・社会全体については、県平均より相当高い結果となった。
- ・政治の働きについての問題は、全体的に県平均より相当高い結果となった。
- ・地図の中から壇ノ浦や鎌倉の位置を選ぶ問題や、資料を基に江戸幕府の政策について説明する問題については課題が見られた。

○算数の調査結果概要について

- ・算数全体については、県平均より相当高い結果となった。
- ・示された図を基に代金や人数を求める問題については、県平均より相当高い結果となった。
- ・計算の仕方を説明したり、答えの理由を記述したりすることについては課題が見られた。

○理科の調査結果概要について

- ・理科全体については、県平均より相当高い結果となった。
- ・全ての問題の正答率は、県平均よりも上回った。
- ・特に実験の方法や結果の考察等を問う問題は、県平均より相当高い結果となった。

【調査結果全体を振り返りて】

4年生の国語は県平均と同等で、それ以外は県平均を上回る結果となりました。県平均との比較（県平均を1としたときの値）を昨年と比べてみると（学習内容が異なりますので厳密な比較にはなりません）、以下のように伸びていることが分かります。

5年生	国語（県平均との比較値）・・・4年時1.08 → 5年時1.17
	算数（県平均との比較値）・・・4年時1.14 → 5年時1.22
6年生	国語（県平均との比較値）・・・5年時1.06 → 6年時1.07
	算数（県平均との比較値）・・・5年時1.06 → 6年時1.23

※4年生は今年度初めて本調査を受けましたので、5年生になったときの結果で比較します。

本年度は、自ら学ぶ児童の育成を目指し、算数科を中心に授業研究を行ってきました。その中で、児童の学習意欲を高めるために、学習評価を工夫する授業実践を行っています。同時に、タブレットを活用した授業作りや家庭学習（夏休みの課題）の取り組みの研究も進めています。まさに「デジタル世代」である子供たちは、調べ学習のためだけでなく、学習の記録や情報の共有、課題の提出など、さまざまな場面でタブレットを活用し、生き生きと学習に取り組んでいました。従来の学習方法と新しい機器の融合は、子供たちに勉強の面白さを再発見させたり、苦手意識を克服させたりすることにつながりました。また、毎学期取り組んでいる「家庭学習がんばり週間」では、保護者の皆様の励ましを受けながら、子供たちは家庭学習を習慣化させてきています。このような学習環境が子供たちの学習の質や学習意欲を向上させ、今回の学習状況調査の結果に導いたと考えております。

しかしながら、学校は勉強が全てではありません。本校の教育目標である「心も体も元気で前向き、未来を拓く基山っ子の育成」の実現を目指して、元気のよいあいさつや身だしなみをはじめとする、人としての基本も引き続き指導してまいります。